



WEEKLY REPORT

2008-2009 No.26 2009年1月22日

会長◆鈴木安之 会長エレクト◆臼井 浩 副会長◆矢部房男 村田典昭
 幹事◆三宅 謙 SAA◆桐田吉彦 会計◆市川 浩 ◇広報委員長:石田 隆
 E-mail:zushirc@sage.ocn.ne.jp Website:http://www.zushi-rc.com/
 例会日・第1・3木曜日 12:30~13:30 第2・4木曜日 18:30~ 第5木曜日 18:00~
 例会場・逗子市新宿 1-3-35「カンティーナ」 TEL:046-870-6651
 事務所・逗子市逗子 1-9-26 萬屋ビル 2F TEL&FAX:046-873-0226

本日の進行(18:30)

八木正幸氏「調整色強まる神奈川県内景気:現況と今後の見通し」

一次回のお知らせ

1月29日(木)(18:00)
 職業奉仕フォーラム
 (海狼)

◀ 第 2284 回 例会記録 2009年1月15日 ▶

| | | | | |
|------|--------------------|----------|------------|----------------|
| 出席報告 | 会員数 43 名(出席免除 6 名) | 出席数 29 名 | 出席率 78.38% | 前回修正出席率 70.27% |
| ゲスト | ルイス君 | | | |

■ 会長 談 話 鈴木 安之 会長



明けましておめでとうございます。
 ルイス君は1月13日より鎌倉西 RC の中西 PG のお宅に移りましたが、渡邊力ウンセラーにはご足労を願いました。この休みに湯沢のスキー場にルイス君を連れて行きました。スノーボードを買って乗り、いきなり私にぶつかり、また最後には足を捻挫するという出来事がありました。今はすっかり治っています。

日経新聞の春秋欄の良い言葉を紹介します。
 「板前、大工職人は道具が刃物であり腕が立つほどに砥ぎ石を大事にする。その例のように人間一人生にも砥ぎ石を持って。一冊の本に出会う。一人の女性に出会う。一人の親友を持つ。一本の酒。一つの言葉を大切に。そういった砥ぎ石を持たないと人間“なまくら”になっていくよ。」ということです。

■ 報 告

三宅幹事: *地区補助金申請書案内 *第5回 I A 合同会議 2/7 14:00 *ローテック小田原散策 2/1 かまぼこ作り体験 10:45 *第3回アクターズミーティング 1/25 横須賀市立総合福祉会館 13:00 *日米協会餅つき 2/7 *ワークショップ「リアル開設 10 周年記念感謝の集い」13:30 逗子文化プラザ



■ ニコニコ BOX (72,000円)

鈴木(安)君…妻の誕生祝いを頂き。
 矢部(房)君、三宅君、湊屋君、渡邊君、赤池君、石田君、藤吉君、篤 君…新年明けましておめでとうございます。
 野手君…新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。
 橋(武)君…明けましておめでとうございます。
 石渡君…あけましておめでとう!!
 葉山君…新年おめでとう。
 臼井君…謹賀新年。
 市川君、石黒君、松田君…今年もよろしく。
 毛利君、福島君、山科君、矢島君…今年もよろしく。
 山本(由)君、高橋君、河野君…今年もよろしくお祈りいたします。
 坂井君…今年もどうぞよろしく。
 矢部(光)君…新年明けましておめでとうございます。誕

生祝をありがとうございます。
 松井君…新年おめでとうございます。鈴木安之会長、あと半年です。
 菊池君…あけましておめでとう。12月誕生月だったので、ありがとうございます。
 山本(三)さん…あけおめことよろ、頑張ります。
 鈴木(久)君…今年もよろしく。昨年末餅つきを楽しんでもらいました。
 桐田君…体調をくずし、理事会を欠席してしまいました。
 村田君…耐寒ゴルフ無事帰還!
 安藤君、久美子さん…新年おめでとうございます。今年も又良い年であります様に。

ニコニコ BOX 本日合計 ￥ 72,000
 累計 ￥ 1,040,000+

◆ 「新年会 ・ ・ 今年も奥様方にお世話になります ・ ・ 感謝！」



初例会は葉山マリナ・恩波亭にて開催。会員 33 名、奥様 19 名、ルイス君の総勢 53 名が出席。次年度会長、幹事予定の臼井、山本会員の紹介があり、出し物の服部真湖さんの日舞、獅子舞、山川美子さんの演歌を十分に楽しみ堪能した。良き一年を願いつつ、会場いっぱいの笑いと共に 2009 年が元気良くスタート。



毎例会写真は市川会員の撮影 ・ ・ 感謝



コラム

▼国際青少年交換事業について▼

15～19 歳の男女を親善使節として交換するものであるが、その意義については大方の認めているところである。即ち、単に派遣された相手国の言葉が出来るようになるだけでなく、ほんの一年間の期間にも拘らず、人間として一回りも大きく成長して帰国するということである。例外はあるものの、大筋としては、私もそのような印象を持っている。特に小児期の躰の厳しくない日本の学生の場合、見違えるような大人になって帰ってくる者も少なくない。しかし、反面、機関誌などには載せられていない、好ましくない事象もある。

あるアメリカへ留学した少女は通学以外は、ベビーシッターやメイド代わりに使われて、普通は 3～4 軒のところを、6～7 軒もホストを変更され、何しに留学したのか解らない、と泣きながら帰国報告をしていた姿が記憶に残っている。またアメリカ人の男の子は、16 才でありながら執拗に“ビールを飲ませろ”と主張し、ホストや会員を困らせたこともあった。ひどいものになると、抱摸まがいのことで補導され、委員を悩ませた事例もあった。恋愛はタブーになっているが、学校にご迷惑をかけたこともある。これには後日談があり、数年後、男子生徒がオーストラリア迄出かけて仕事を見つけ、目出度く相手の女子学生とゴールインした。私の以前所属したクラブでは、特に交換プログラムに力を入れていたので、派遣 25 人、受入れ 25 人の中には悲喜こもごも、様々なことがあったが、いずれにしても言葉の通じぬ外国の子女を預かるということは、大変な事だと痛感している。

(篤 進)